

パッケージ

石崎真由美

薄く晴れたあの日は

山あいのロードで

霧が発生

みるみるうちに

我々のいたあたり一面

パッケージされていった

「またね」

互いに言い合って

くるりと背を向けた

三文字の音は

あまりにさらりと

宙に散って

背中に冷たい風が当たった

あなたも同じだろうか

その時

あさはかな期待がうまれて

そつと振り向いてみた

はたして

あなたは背中しか

見せなかった

清々とした

二人のいつもの別れが

今度は

少し濁った

これもきつと

パッケージされていく

この夏も終わり

ある朝

蟬が鳴かないと知るまでには